

2020年度 こども園 アサンプション国際幼稚園 幼稚園評価報告書

1 教育目標

キリスト教の精神の教えに基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。

- ・正しく生き生きとした子ども
- ・優しく明るい子ども
- ・考え、最後までやり抜こうとする子ども

2 重点取組内容

1. 教育事業
2. 教育環境の整備
3. 社会連携・奉仕事業
4. 募集・入試に係る事業

【学校評価 自己評価アンケートの結果と分析】(2021.2月実施)

<保護者>

「家でできないような同年代の子ども達との関りや、様々な遊びを園で経験させてもらうことで子どもが成長していくことができ感謝してる」また「コロナウイルスの影響があり、入園当初は心配事が多々あったが、先生方に相談にのっていただき、安心して通わせる事ができた」など日々の保育や園の方針について賛同いただける意見が多数あった。その一方で「預かり保育の予約が取りにくい」「エプロンが、男の子がブルー、女の子がピンクというのは、時代に合わなくなっているのではないか」などのご意見もいただいた。

<職員>

- ・縦割り保育を取り入れることにより「心の教育」が自然と行われている場面が多く見られ、相手に対する思いやりや労わる気持ち、成長への憧れや期待をもって過ごすことができた。また設定保育を中心とした横割り保育では、同じ年齢の友だちの中で人間関係構築に必要な関わりを経験した。
- ・登園時の縦割り保育のクラスから横割り保育のクラスに移動するにあたっての時間のロスや遊びが中断してしまうなど、子どもにとっての負担や活動の達成感不足などが気になった。そのため保育の形態について一度見直す必要があると感じる。

<分析>

- ・こども園になり預かり保育の需要が伸びる中、新2号認定の保護者の予約が取りやすくなるよう工夫していきたい。
- ・「多様性」を求められる今、時代のニーズに合うように子どものエプロン等を見直して行く必要がある。
- ・縦割り保育のクラスから横割り保育のクラスに移動するにあたっての時間のロスや、遊びが中断してしまうなどによる子どもの負担や活動の達成感不足については、保育の形態を見直していく。

3 本年度の取組内容及び自己評価

重点取組内容	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 教育事業	<p>n (1) 教育充実のために取り組む</p>	<p>(ア) 遊びを通して主体的・協同的な学びができる保育を考える。</p> <p>(イ) 保育内容や体験活動をより充実させ、子どもたちの知的好奇心を高めるとともに小学校をはじめ他所属との交流を活発にし、学院全体で園児を見守ることで、一貫教育のよさを伝える。</p> <p>(ウ) 子どもたちの自立や自己肯定感を育むモンテッソーリ教育や縦割り保育、横割り保育、その他の体験活動を充実させる。</p> <p>(エ) 宗教教育 目には見えないけれど、いつも見守ってくださる方がいらっしゃることを子どもたちが感じる。</p> <p>(オ) 幼児体操、幼児英語それぞれの専門指導員のもと、保育を実施する。</p>	<p>(ア) 一年間の計画を立て、縦割りでの自由制作活動を活発に進める。</p> <p>(イ) 園児と小学校児童・中学高等学校の生徒との交流を実施する。</p> <p>(ウ) 学院外講師を招いた体験活動を実施。</p> <p>(エ) 日々の生活の中で静かに手を合わせ祈る。また讃美歌を歌ったり聖劇を通して神さまを身近に感じる。聖堂に行き、シスターから神さまのお話を聞く。</p> <p>(オ) 幼児専門指導員による体操指導により心と体の鍛錬と体力の向上を図る。 また幼児英語専門の指導者のもと、ゲームで遊んだり歌ったり楽しみながら自然に英語や国際感覚を身に付ける。</p>	<p>判定： できた ○ 一部できた △ できなかった ×</p> <p>(ア) 判定：○ 早い段階から見通しを持ち、子どもたちが自分で考え行動できるような活動を取り入れることができた。</p> <p>(イ) 判定：× 新型コロナウイルス感染症拡大防止（緊急事態宣言時など）のため、中学高等学校からの海外留学生との交流会、小学校「みんなであそぼう」など、他所属との連携を図る交流は中止とした。</p> <p>(ウ) 判定：○ Everly（エバリー）による音楽鑑賞、書道、茶道等の体験活動を実施した。</p> <p>(エ) 判定：○ 神さまが、いつも見守ってくださっていることを子どもたちが感じ、静かな心で祈ることができた。</p> <p>(オ) 判定：○ コヤマススポーツスクールに体操保育を業務委託し、子どもたちの運動能力を伸ばすことができた。また、体操保育に必要な知識や技術を教員が学ぶこともできた。幼児英語ではネイティブの専任教諭による「ジェーンイングリッシュ」を実施した。</p>

	<p>(2) 教員のレベル向上</p>	<p>(ア) 教員スキル向上研修や公開保育、メンタルヘルス対策、学校カウンセラーによる教育相談を実施する。</p> <p>(イ) 「ECEQ」(イーセック) 公開保育を実施。</p> <p>(ウ) 神父さまや宗教担当者による研修を実施し、カトリック教育の理解を深める。</p>	<p>(ア) 学校カウンセラーによる研修・教育相談の実施する。</p> <p>(イ) 外部の視点を導入することによって保育の質の向上に努める。</p> <p>(ウ) 定期的な教員向けの宗教研修を実施する。</p>	<p>(ア) 判定：○ 定期的な研修や学校カウンセラーによる教育相談を実施した。</p> <p>(イ) 判定：○ 自分の保育を見直す良い機会となった。</p> <p>(ウ) 判定：○ シスターによる宗教研修を実施した。理解を深めるためには、より研修を重ねる必要がある。</p>
<p>2 教育環境の整備</p>	<p>(1) 子どもたちは毎日過ごす環境を、明るく・美しく・安全に整える。</p>	<p>(ア) 定期的な安全点検（園舎・園庭・遊具等）を実施する。</p> <p>(イ) 自家用車送迎を希望する家庭には、毎年度申請制とし、「立体駐車場使用許可証」を発行する。</p> <p>(ウ) 自転車通園・徒歩通園の家庭には、マナー登降園指導を実施し、安全管理に努める。</p>	<p>(ア) 月始めの各所安全点検を実施する。</p> <p>(イ) 本学院内に車で入構する場合は許可証をフロントガラス内側に呈示するよう徹底し、安全管理に努める。</p> <p>(ウ) マナーを守って安全に登降園できるよう、教員が迎え入れや送り出しをする。</p>	<p>(ア) 判定：○ 園務分掌にて役割を決め、定期的に安全点検を実施することができた。</p> <p>(イ) 判定：○ 保護者に、自家用車で通園には必ず「立体駐車場使用許可証」を提示するよう促した。また、近隣に無断で駐車する在園児の車を取り締まり、指導をいれた。昨年度からの呼びかけにより、定着してきた。</p> <p>(ウ) 判定：○ マナーを守って安全に登降園できるよう、教員が迎え入れや送り出しをするようにした。</p>
<p>3 社会連携・奉仕事業</p>	<p>(1) 地域との連携や子育て支援の充実を図る。</p>	<p>(ア) 地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」（園庭開放）を定期的実施し先生やお友だちと出会い、たくさん遊びを通して心身ともに育ちあう場を設ける。</p> <p>(イ) 地域の子育て支援の一貫として「プレスクール」を実施する。</p>	<p>(ア) 地域子育て支援のイベントを年間12回以上（園庭開放を含む）実施する。</p> <p>(イ) 就学前の2歳児の親子対象に年間60回実施。（ひとクラス15名、年20回を3クラス）親子で製作や集団遊びを楽しんでもらう。</p>	<p>(ア) 判定：△ 地域子育て支援として「みんなであそぼう」を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止予防について、箕面市からの指示により一部実施を中止した。</p> <p>(イ) 結果：△ 新型コロナウイルス感染症拡大防止（緊急事態宣言時など）のため継続して行うことが難しかった。</p>

4 募 集 に 係 る 事 業	(1) 募集活動の強化	<p>(ア) 2021年度の募集を強化する。</p> <p>(イ) 2021年度用に新たに園案内を作成する。</p> <p>(ウ) ホームページをブラッシュアップする。</p> <p>(エ) 園庭開放を実施する。</p>	<p>(ア) 2021年度入園受け入れ人数を90名とする。</p> <p>(イ) 新しい園案内を説明会出席者や来園者に配布する。</p> <p>(ウ) ホームページのデザイン・掲載写真の更新。</p> <p>(エ) 子育て支援の場として、園を知ってもらうために園庭を開放し親子で遊ぶ。</p>	<p>(ア) 判定：△ 2021年度の入園者数は73名となり目標達成には及ばなかった。昨年に引き続き、園児数に対して教員数（加配教員も含む）が不足しているのが現状である。園児数の確保のためには教員数の確保が必要である。</p> <p>(イ) 判定：○ 園の概要を保護者にわかりやすく掲載した。園案内を説明会の出席者や来園者に配布した。</p> <p>(ウ) 判定：○ ホームページ上の写真の更新や日々のブログを更新し、最新の情報を提供するようにした。</p> <p>(エ) 判定：△ 域子育て支援イベント「みんなであそぼう」と同様に園庭開放を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大予防について、箕面市からの指示により、一部実施を中止した。</p>
	(2) 関係各所との連携	<p>(ア) 一人ひとりをきめ細やかに見守り、大切にす一貫教育のよさを活かす。</p> <p>(イ) 内部進学制度（園長推薦）の構築とその周知徹底をはかる。</p> <p>(ウ) 小学校との計画的な交流や連携を強化し、幼小一貫教育に力を入れる。</p>	<p>(ア) 園から併設小学校へ進学する子どもたちへの丁寧な申し送りをする。</p> <p>(イ) 園長推薦説明会と併設小学校からの内部向け説明会を実施する。</p> <p>(ウ) 園と併設小学校とがつながりのあるカリキュラムを構築する。</p>	<p>(ア) 判定：○ 内部進学する子どもたちの状況を小学校と情報を共有し、卒園後も引き続き細やかな配慮ができるように話し合いの場を持った。</p> <p>(イ) 判定：○ 少しずつ園長推薦制度が定着し、内部進学者は今年度19名までであった。</p> <p>(ウ) 判定：△ 現在構築中であり、2021年度から学院全体としての教育指針のもと現在準備を進めている。</p>